

小学校外国語活動・外国語科導入に向けての研修会

- 日時 令和元年6月17日(月) 15:45~16:45 ■ 会場 福光東部小学校
- 講師 南砺市外国語専科教員 教諭 中谷 真由美 先生
- 参加者 13名(小学校教員)
- 内容 「新教材の活用」 ~ Let's talk. Let's read. ~ (We can! 2)
〔模擬授業・ワークショップ〕

<参加者の感想より>

- ・キーとなる絵を示すことで、対話の流れが分かりやすくなる。フィンガードリルを用いて語の数や語順を確認しながら文を覚えていくと分かりやすい。やり取りの活動が、インフォメーションギャップ(自分しか知らない情報)を生かして、楽しくコミュニケーション活動できるように考えられていた。
- ・本時の学習に必要なワードについて、使用する回数を徐々に増やし負荷をかける、子供たちに質問をし、予想した後もう一度使ってみるようにするなど、様々なやり方で英語を使ったり聞いたりする場が工夫されていた。



使おうリアクションワード

- 日時 令和元年6月19日(水) 13:50~16:30 ■ 会場 福光中部小学校
- 講師 富山大学 教職実践開発研究科 教授 岡崎 浩幸 先生
- 授業者 JTE: 寺嶋 智子 先生
HRT: 笹谷 和生 先生
ALT: レイチェル デュプレチェーン 先生
- 参加者 28名(小学校教員)
- 内容 「Do you have a pen?」(Let's Try!2 Unit5)
〔第4学年授業観察、協議会、講演〕



指導者のチームワーク

<講演より>

- ◆ 授業の評価について
 - 「クリアボイス」「アイコンタクト」「ジェスチャー」等の評価は、他教科でも行っている。本時のねらいに即した外国語活動特有の評価を取り入れたい。
 - 児童の意欲が向上するのが本当の評価である。
 - ・英語のできだけでなく、英語を使って何(どんな情報)を得ることができたか
 - ・相手に自分の言いたいことが伝わっていたか

- 日時 令和元年7月30日(火) 15:00~16:45 ■ 会場 井波庁舎
- 講師 富山大学人間発達科学部附属小学校 教諭 渡辺千愛実 先生
- 参加者 26名(小学校教員)
- 内容 低学年 外国語遊び 「楽しく遊びながら外国語に親しむ活動例」
〔模擬授業・ワークショップ〕

<参加者の感想より>

- ・楽しく体験的に活動しながら、学ぶことができた。低学年のうちから、ゲームや絵本、歌、ダンス等で、単語をどんどん学ぶことで、中・高学年になっても苦手意識なく、英語を楽しめるようになるのだと思った。渡辺先生を見習って、教師も楽しんで外国語活動をしていきたい。
- ・低学年の指導では、聞くこと、まねること、体を動かすことを重視し、双方向のコミュニケーションの力を身に付けることを大切にしていきたい。



英語の大型絵本を使って

- 日 時 令和元年8月6日(火) 15:00~16:45 ■ 会 場 井波庁舎
- 講 師 西部教育事務所 指導主事 室崎 ゆかり 先生
- 参加者 29名(小学校教員20名、中学校教員9名)
- 内 容 「新学習指導要領のポイントと小中連携」
〔講義・ワークショップ〕



「知っている表現で
どんなふうに言えるかな」

<参加者の感想より>

- ・中学校の先生にも、小学校で取り組んでいるスマールトークや教材について、実際に体験しながら知っていただけたので、よい機会になった。
- ・スマールトークはパターン化してしまうとあまりおもしろくないので、子供が自由に活動できるようにすること、言いたくても言えなかったことについて出し合い、子供自身が考えられるようにすることを、授業の中で大切にしていきたい。
- ・小学校で取り組んでいること(移行期間も含めて)を前提において、中学校でどのように進めていけばよいかということに気付くことができ、今後意識をして授業を進めていきたい。

- 日 時 令和元年9月10日(火) 14:50~16:35 ■ 会 場 福光南部小学校
- 授業者 HRT:島 千明 先生 ALT:ミカ ポスト 先生
- 講 師 富山大学 教職実践開発研究科 教授 岡崎 浩幸 先生
- 参加者 35名(小学校教員26名 中学校教員5名 大学院生4名)
- 内 容 「福光南部校区のステキを伝えよう」(We Can!2 Unit4)
〔第6学年授業観察、協議会〕



「Why?」を入れると会話が続くね

<参加者の感想より>

- ・「分からなくても話そうとチャレンジする子供」「分からなければ積極的に友達に聞こうとする子供」、このような子供の姿が大切だと実感した。スマールトークの大切さ、よさが分かった。
- ・教師がよいデモンストレーションを見せたり、よい活動をしているペアを広めたりし、もっと話したいという子供を育てていきたい。
- ・スマールトーク、カードゲームをしている子供の様子を見て、子供たちがコミュニケーションの素地をしっかりと身に付けていると思った。中学校でもしっかりと迎える準備をしておかなければならないと感じている。

- 日 時 令和元年9月20日(金) 14:40~16:40 ■ 会 場 福野小学校
- 授業者 HRT:澤川 雄太 先生 ALT:ツアン ヴィン 先生
- 講 師 南砺市教育センター 所長 新明 春生
- 参加者 43名(小学校教員39名 中学校教員4名)
- 内 容 「アクティビティ、振り返りの工夫」(We Can!2 Unit5)
〔第6学年授業観察、協議会〕



感想を表すには
どんな言葉が入るかな

<参加者の感想より>

- ・スマールトークを充実させるために、①内容、②表現の保障、③構造が大切であることがよく分かった。子供たちが、自分事として語るができる場を目指したい。
- ・中学校でも難しい活動(中2での過去形の対話)を6年生でここまでできると感心した。前時までに必要な表現を練習し、慣れ親しんだ語句を本時に使うといった単元の組み立てがよかった。
- ・中学校の先生から、中学校では、「That's _____」を使うことや、まずは英語を聞き取れることを大切にしていることを教えてもらった。子供が必要感を感じて取り組んでいく授業は、どの教科等においても共通して大切であることを実感した。